

事業名	西之表市史編さん事業
-----	------------

総事業費	54,610 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	郷土の歴史を知り、本市の歴史文化や文化財、自然に対する誇りと愛着を深める。	
事業の実績と成果	取組内容	編集委員会を鹿児島市で1回実施し、執筆の状況、今後の校正スケジュールについて、部会間で確認した。専門部会による部会の開催は、中世部会が1回実施した。「編さんだより」を2回市内全戸に配布し、編さん状況の周知を行った。執筆内容の最終確認のための現地調査も可能な範囲で行い、原稿の校正に活かすことができた。
	成果	昨年に引き続き、民俗学者故下野敏見氏の所蔵資料の搬出作業を行った。ご自宅を1回訪問し、全ての資料を搬出することができた。市民から、200点を超える資料の提供があった。3月上旬に校了となり、通史編の印刷製本を行うことができた。完成した市史通史編は、島内の公共施設や島民の多く集まる民間事業所、執筆者や資料提供機関に発送した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題(事業担当者記入)	市史通史編の販売価格、販売方法等について、令和6年度早急に決定する。令和7年度にダイジェスト版を刊行することを目標としているため、内容・体制等について検討していく。通史編に盛り込むことができなかった内容を資料集としてまとめ、印刷製本していくことも必要である。市史編さんで収集した資料の今後の整理・活用については、庁内で検討していく必要がある。
評価結果の根拠及び今後の課題(担当課長記入)	5か年計画の予定通り、市史を刊行できた。編さん作業を通じ、市民に本市の歴史文化に興味を持っていただくよう工夫を重ねたが、引き続き、ダイジェスト版の作成や講演等を通じて市民に関心を持っていただき、将来のまちづくりに生かしていけるような取組が重要である。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	市史通史編の販売価格、販売方法等について、令和6年度早急に決定し、PRに努める。令和7年度にダイジェスト版を刊行することを目標としているため、内容・体制等について検討する。通史編に盛り込むことができなかった内容を資料集としてまとめ、印刷製本する。市民・地域・出郷者からの古資料については、引き続き可能な限り収集に努める。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	3月上旬に校了となり、通史編の印刷製本(1,000部)を行うことができた。完成した市史通史編は、島内の公共施設や島民の多く集まる民間事業所、執筆者や資料提供機関に発送した。

事業名	歴史文化活用事業
-----	----------

総事業費	1,053 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	本市が有する歴史文化資源の魅力を知ってもらう。	
事業の実績 と成果	取組内容	大阪大学湯浅教授、島根大学竹田教授を講師としてお招きし、「種子島あかおぎ大学文化講座」と称して講演会を開催した。テーマは天囚が撰文した前田豊山の石碑の紹介と、中国古典についてであった。鉄砲伝来480周年を記念し、最新の知見から鉄砲伝来を見つめ直す講演会を開催した。本市出身のCGアーティスト河口洋一郎氏による講演会を開催した。
	成果	新型コロナウイルス感染症によるイベントの規模縮小・中止も漸く撤廃され、本市の歴史文化をPRするための講演会を令和5年度は3回開催することができた。 令和6年度の西村天囚没後100年記念事業に向け、イベントの時期、講師等についてはある程度固めることができた。 鉄砲伝来に関する講演会も、本市の480周年記念事業の目玉の一つとして開催し、多くの人々に聴講していただくことができた。 河口氏は講演会の翌日にも上西小学校・種子島中学校において講話を行い、本市の次代を担う児童生徒は大きな刺激を受けたことと思う。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	本市が有する歴史文化資源の活用については、今後も随時関係課等と協議しながら取り組んでいく。 特に古民家の取得・活用案については、所有者や関係課と密に連携を取り、協議を進める必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	市史編さん事業と並行して、大阪大学との共同研究や、新たな資料等の収集など幅広い活動ができています。成果を市民へ還元し、誇りと愛着の醸成のための取組を進めていくことが求められる。市史編さん等を通じて収集した膨大な資料の保管等は今後の課題である。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	西村天囚没後100年記念事業を実施し、市民島民、観光客に本市が育んだ郷土の偉人西村天囚の事績を広く知らしめる。 また、本市の歴史文化資源の活用について、庁内関係課、庁外の関係団体等と協議し、検討していく。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	<p>鉄砲伝来480周年を記念し、歴史・化学・民俗の観点から鉄砲伝来を見つめ直す講演会を開催した。</p> <p>講演会の開演に先立ち、姉妹都市であるポルトガルのヴィラ・ド・ビスポの市長から送られたビデオメッセージを上映し、鉄砲伝来を契機としたポルトガルとの交流についても市民の意識を啓発できた。</p> <p>講演会は、それぞれのご専門の立場から最新の知見を交えて発表がなされ、鉄砲伝来年についての意見が研究者によって違うこと、火薬の原料となる硝石の作り方、種子島の鉄砲鍛冶職人の系譜などバラエティに富んだものとなった。</p>

事業名	ふるさと歴史散歩看板整備事業
-----	----------------

総事業費	1,021 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図	身近な地域の歴史を伝え、郷土に誇りをもたせる。また、文化財を観光ツールとして活用し、本市の文化財の普及啓発を図る	
事業の実績と成果	取組内容	既存の歴史散歩看板の現状調査。製作看板の選定。看板原稿の作成、レイアウト。看板原稿校正。看板製作設置業務委託契約。看板設置、検査。 次年度以降の設置看板選択。看板内容多言語化への手法検討。
	成果	現和校区・中割校区を中心に合計29基の看板を設置することができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	看板の製作設置。看板を活用した文化財の普及啓発活動。設置した看板の現況把握。
評価結果の根拠及び今後の課題 (担当課長記入)	当初の計画どおり看板の製作設置を行うことができた。看板の更新(建替え)は令和6年度で完了し、各校区に設置した「ふるさと歴史散歩」看板は全てアルミ複合板となる。課題である看板の活用については、看板の多言語化事業と連動しながら引き続き市HP・広報誌・SNSなどで周知し、学校・地域・観光協会など関係機関と連携しながら利用の促進を図る。看板の更新は平成27年度から実施しており、初期のものは設置後9年が経過することから看板の状態を把握しながら、板面の劣化が進んでいるものは、板面の張り替え作業が必要となる。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	看板の製作設置。看板を活用した文化財の普及啓発活動。設置した看板の現況把握。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	設置した看板